

2. 中心市街地の位置及び区域

[1]位置

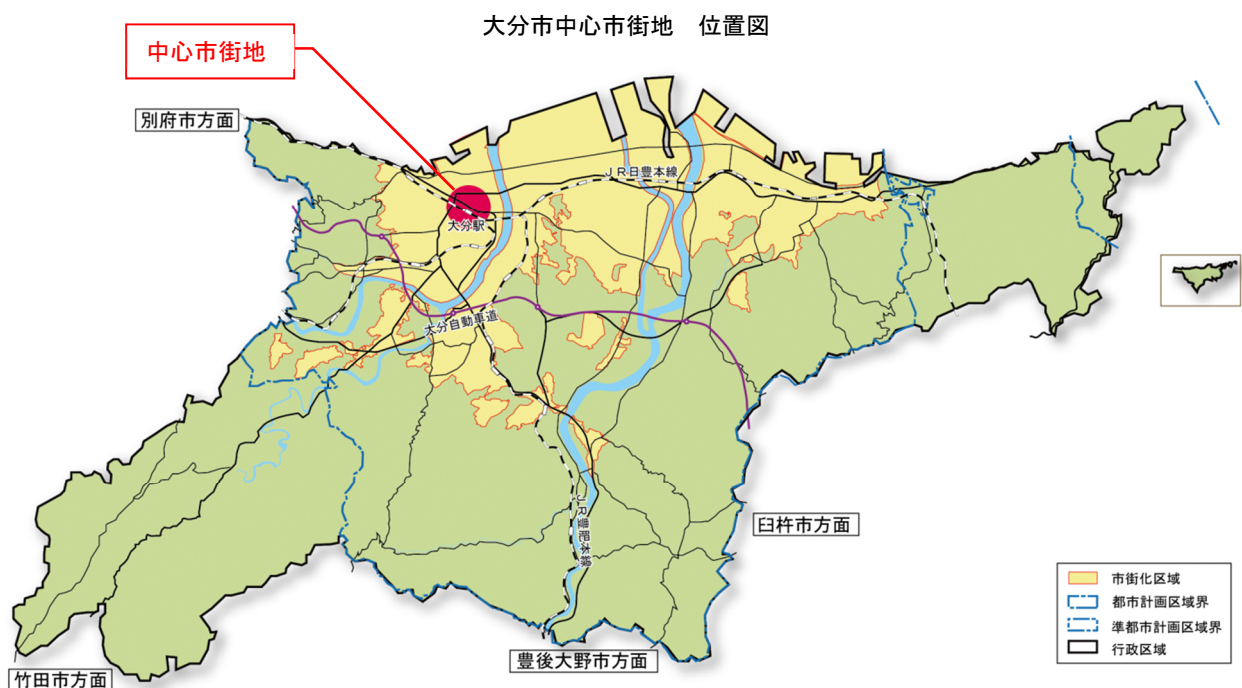
位置設定の考え方

近世の府内城下町を基礎とした本市の中心市街地は、中央通り周辺に、商業、業務、文化、行政など県都として多様な都市機能が集積する大分駅北側の既存商業地を中心に発展してきた。

大分駅周辺総合整備事業によって、ホルトホール大分、J R おおいたシティ、大分県立美術館等の集客施設がオープンするなど、過去に類例のない大型プロジェクトが行われ、駅南北市街地の一体化が実現するとともに、商業、業務、文化、行政など高次都市機能が最も集積する地区となった。

東九州の交通拠点であるJ R 大分駅は、九州で4番目に乗車人数の多い拠点的な駅であり、今後は東九州における広域周遊観光の起点として、時間消費型観光の拡大、インバウンド誘客に向けた受入環境の整備、広域都市圏内への高次な都市サービスの提供等を進めることにより、交流人口の拡大を図ることとしている。

こうした大分駅の南北に広がる市街地は、高次な都市機能が集積し、東九州における経済の拠点としての役割を担っていることから、中心市街地と位置づける。



[2]区域

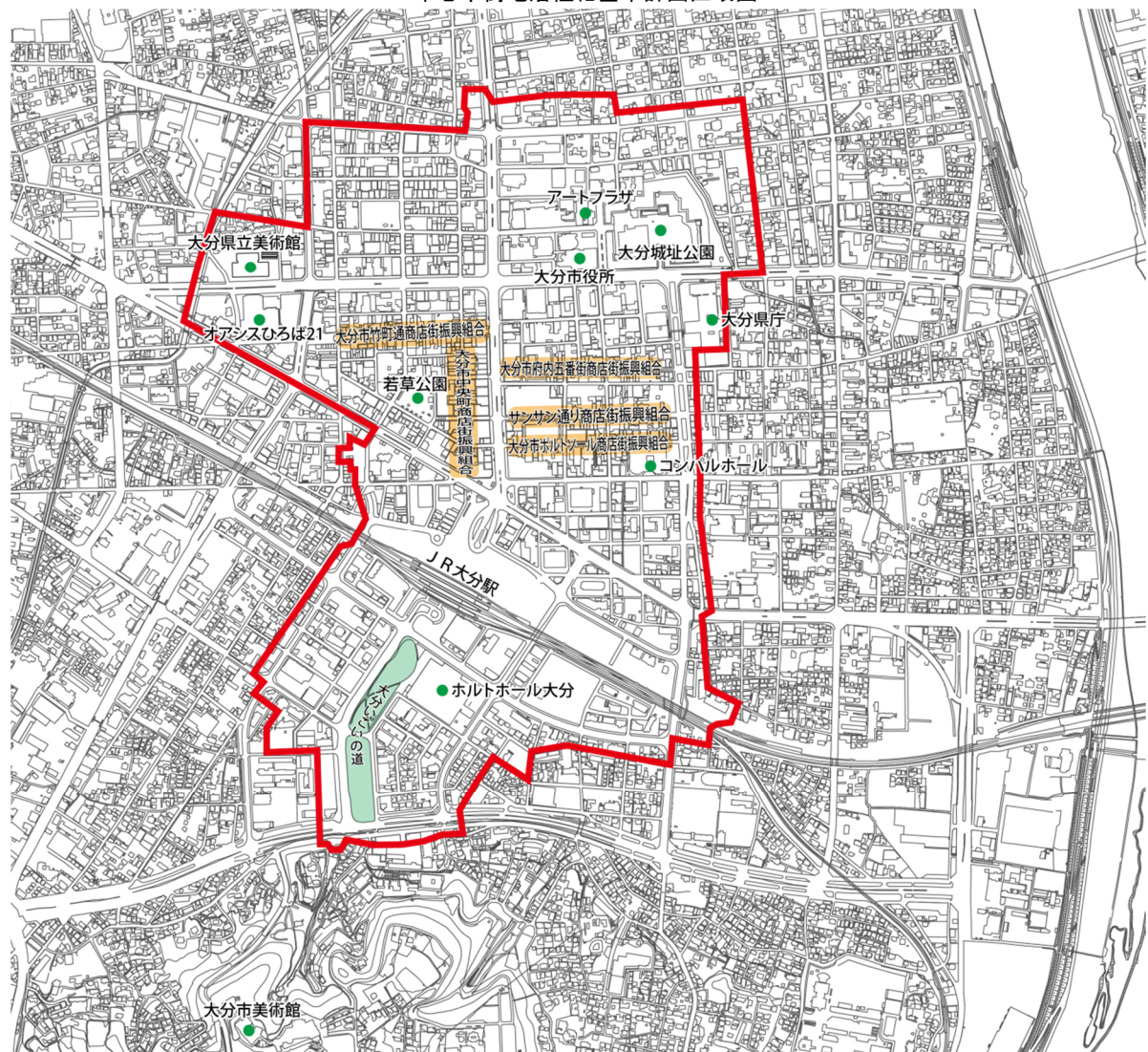
区域設定の考え方

大分駅周辺総合整備事業の実施により、中央通り周辺の商業、業務、文化、行政など都市機能が集中する駅北既存商業地と駅南の市街地とが一体となった新たな中心市街地が形成された。中央通りから駅南のシンボルロード「大分いこいの道」までの都心南北軸については、南北市街地の回遊性の軸として、歩行者が安全・安心に回遊できる、心地よい環境を提供することでうるおいのある憩いの空間となり、さらには、様々な来街者が活発に活動し集える賑わいの空間として、ひとを中心とした安全・安心・快適な新たな公共空間となった。

本市の中心市街地は、この都心南北軸を中心として東西方向に徒歩圏の範囲を区域とする。

具体的には、南側はホルトホール大分をはじめとする高次な都市機能や街なか居住機能の集積が進んでいる区域、東側は百貨店などの大規模商業施設や商店街が集積した商業エリア、北側は府内城址及び飲食店が集積した都町を含むエリア、西側は大型店や商店街の商業集積と平成27年に開館した大分県立美術館のエリアを含む153haとする。

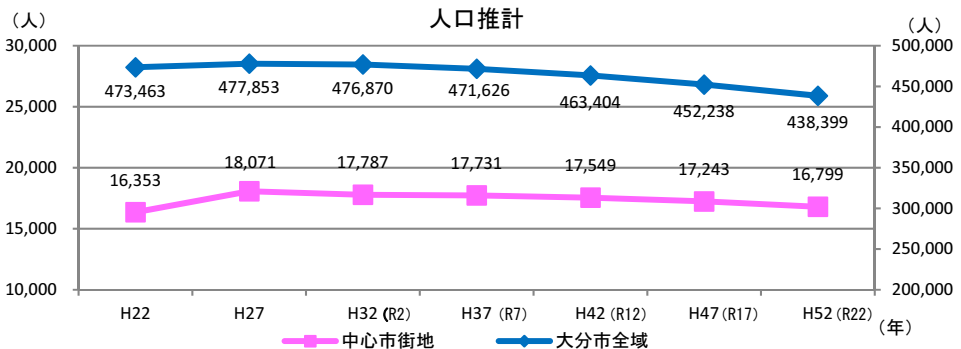
中心市街地活性化基本計画区域図



[3] 中心市街地の要件に適合していることの説明

要 件	説 明																																				
<p>第1号要件 当該市街地に、相当数の小売商業者が集積し、及び都市機能が相当程度集積しており、その存在している市町村の中心としての役割を果たしている市街地であること</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">中心市街地は、商業機能（小売業）が高密度に集積しているとともに、商業機能と連携して、市民の都市生活を彩る多様な都市機能が集積しており、本市の中心としての役割を果たしている。</p> </div> <p>○小売業の集積</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の小売業のうち、9.5%の店舗が集積し、8.7%の従業者が働き、10.4%の年間商品販売額を占めている。 <p>小売業の状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>中心市街地 ①</th> <th>大分市全域 ②</th> <th>対市シェア ①/②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>店舗数（店）</td> <td>259</td> <td>2,714</td> <td>9.5%</td> </tr> <tr> <td>従業者数（人）</td> <td>2,094</td> <td>24,065</td> <td>8.7%</td> </tr> <tr> <td>年間商品販売額（億円）</td> <td>508</td> <td>4,863</td> <td>10.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">※対市シェアとは、大分市全域における中心市街地の占める割合 資料：平成26年商業統計</p> <p>○事業所及び従業者</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の事業所のうち、中心市街地には16.5%の事業所が集積し、14.5%の従業者が働いている。特に、宿泊・飲食業は、市内の40.6%の事業所が集積し、経済の中心となっている。 <p>事業所及び従業者の状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>中心市街地 ①</th> <th>大分市全域 ②</th> <th>対市シェア ①/②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業所数（全事業所）</td> <td>3,349</td> <td>20,245</td> <td>16.5%</td> </tr> <tr> <td>従業者数（全事業所）</td> <td>32,154</td> <td>222,240</td> <td>14.5%</td> </tr> <tr> <td>事業所数（宿泊・飲食業）</td> <td>1,031</td> <td>2,541</td> <td>40.6%</td> </tr> <tr> <td>従業者数（宿泊・飲食業）</td> <td>6,335</td> <td>19,436</td> <td>32.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">※全事業所は公務を除く 資料：平成26年経済センサス</p> <p>○行政、文化、福祉など高次で多様な都市機能が集積</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地には、行政機能（大分市役所、大分県庁）、文化機能（コンパルホール、iichiko 総合文化センター、アートプラザ、ホルトホール大分、大分県立美術館）、福祉保健機能（総合社会福祉保健センター（ホルトホール大分内）、大分市保健所）など、広域的な利用に資する高次で多様な都市機能が集積している。 		中心市街地 ①	大分市全域 ②	対市シェア ①/②	店舗数（店）	259	2,714	9.5%	従業者数（人）	2,094	24,065	8.7%	年間商品販売額（億円）	508	4,863	10.4%		中心市街地 ①	大分市全域 ②	対市シェア ①/②	事業所数（全事業所）	3,349	20,245	16.5%	従業者数（全事業所）	32,154	222,240	14.5%	事業所数（宿泊・飲食業）	1,031	2,541	40.6%	従業者数（宿泊・飲食業）	6,335	19,436	32.6%
	中心市街地 ①	大分市全域 ②	対市シェア ①/②																																		
店舗数（店）	259	2,714	9.5%																																		
従業者数（人）	2,094	24,065	8.7%																																		
年間商品販売額（億円）	508	4,863	10.4%																																		
	中心市街地 ①	大分市全域 ②	対市シェア ①/②																																		
事業所数（全事業所）	3,349	20,245	16.5%																																		
従業者数（全事業所）	32,154	222,240	14.5%																																		
事業所数（宿泊・飲食業）	1,031	2,541	40.6%																																		
従業者数（宿泊・飲食業）	6,335	19,436	32.6%																																		

要件	説明																																																																												
<p>第1号要件 当該市街地に、相当数の小売商業者が集積し、及び都市機能が相当程度集積しており、その存在している市町村の中心としての役割を果たしている市街地であること</p>	<p>○城下町形成以来から現在に至るまで広域圏における中心地である</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の中心市街地は、1597年（慶長2年）の府内城及び城下の形成を契機とし、以来400年以上にわたって広域圏における政治、経済の中心である。また、古来より貿易都市として栄えた交通ネットワークの基点でもあり、現在では、JR大分駅の年間乗降客数は1,433万人を有し、バスはほぼ全ての車両が大分駅を目的地とするなど、公共交通ネットワークの拠点でもある。 <div data-bbox="459 586 1396 1070"> <p style="text-align: center;">JR大分駅年間乗降客数の推移</p> <table border="1"> <caption>JR大分駅年間乗降客数の推移 (万人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>乗車人員</th> <th>降車人員</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>618</td><td>622</td><td>1,240</td></tr> <tr><td>H20</td><td>625</td><td>627</td><td>1,252</td></tr> <tr><td>H21</td><td>598</td><td>600</td><td>1,198</td></tr> <tr><td>H22</td><td>600</td><td>603</td><td>1,202</td></tr> <tr><td>H23</td><td>609</td><td>612</td><td>1,221</td></tr> <tr><td>H24</td><td>620</td><td>622</td><td>1,242</td></tr> <tr><td>H25</td><td>642</td><td>646</td><td>1,289</td></tr> <tr><td>H26</td><td>635</td><td>639</td><td>1,274</td></tr> <tr><td>H27</td><td>716</td><td>717</td><td>1,433</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">資料：大分県統計年鑑</p> </div> <p>○大分市を中心とした市町間の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町間の人の動きを見ると、大分市を中心とした移動が多く、特に別府市、由布市との移動が多くみられる。移動の目的は、市町ごとに大きな差はないが、大分市と由布市、豊後大野市間では「私用」目的の移動の割合が比較的高い。大分市は都市圏における広域交流の中心となっており、都市機能の集積や大分駅乗降客数を勘案すると、中心市街地は広域交流の中心となっている。 <div data-bbox="446 1467 1380 1870"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="446 1467 885 2004"> <p style="text-align: center;">大分都市圏の市町間の動き</p> <p style="text-align: center;">資料：H25 大分都市圏 PT 調査（本体調査）</p> </div> <div data-bbox="901 1467 1380 1870"> <p style="text-align: center;">大分市と他市町間における移動の目的別トリップ構成比</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>通勤</th> <th>通学</th> <th>私用</th> <th>業務</th> <th>帰宅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>大分-別府</td><td>20%</td><td>5%</td><td>24%</td><td>18%</td><td>33%</td></tr> <tr><td>大分-臼杵</td><td>22%</td><td>4%</td><td>22%</td><td>15%</td><td>37%</td></tr> <tr><td>大分-豊後大野</td><td>19%</td><td>3%</td><td>28%</td><td>13%</td><td>37%</td></tr> <tr><td>大分-由布</td><td>18%</td><td>3%</td><td>29%</td><td>16%</td><td>34%</td></tr> <tr><td>大分-日出</td><td>21%</td><td>3%</td><td>18%</td><td>23%</td><td>34%</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">資料：H25 大分都市圏 PT 調査（本体調査）</p> </div> </div> </div>	年度	乗車人員	降車人員	合計	H19	618	622	1,240	H20	625	627	1,252	H21	598	600	1,198	H22	600	603	1,202	H23	609	612	1,221	H24	620	622	1,242	H25	642	646	1,289	H26	635	639	1,274	H27	716	717	1,433		通勤	通学	私用	業務	帰宅	大分-別府	20%	5%	24%	18%	33%	大分-臼杵	22%	4%	22%	15%	37%	大分-豊後大野	19%	3%	28%	13%	37%	大分-由布	18%	3%	29%	16%	34%	大分-日出	21%	3%	18%	23%	34%
年度	乗車人員	降車人員	合計																																																																										
H19	618	622	1,240																																																																										
H20	625	627	1,252																																																																										
H21	598	600	1,198																																																																										
H22	600	603	1,202																																																																										
H23	609	612	1,221																																																																										
H24	620	622	1,242																																																																										
H25	642	646	1,289																																																																										
H26	635	639	1,274																																																																										
H27	716	717	1,433																																																																										
	通勤	通学	私用	業務	帰宅																																																																								
大分-別府	20%	5%	24%	18%	33%																																																																								
大分-臼杵	22%	4%	22%	15%	37%																																																																								
大分-豊後大野	19%	3%	28%	13%	37%																																																																								
大分-由布	18%	3%	29%	16%	34%																																																																								
大分-日出	21%	3%	18%	23%	34%																																																																								

要件	説明																																																						
<p>第2号要件</p> <p>当該市街地の土地利用及び商業活動の状況等からみて、機能的な都市活動の確保又は経済活動の維持に支障を生じ、又は生ずる恐れがあると認められる市街地であること</p>	<p>中心市街地の人口は、今後減少に転じることが見込まれる。また、商業統計に基づく小売業の動向、経済センサスによる事業所の動向をみると、小売業の店舗数・年間商品販売額・従業員数いずれも減少し、事業所全体も減少しており、商業やサービス業の集積に陰りが生じている。</p> <p>○中心市街地の人口は今後減少する見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口推計によると令和2年には人口減少に転じることが見込まれる。  <p>※H22・27は、住民基本台帳より。推計値(H32～H52)は、国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツールによる(小地域毎に算出した純移動率及び子ども女性比は、大分市域の全小地域の平均を採用して推計。)</p> <p>○小売業の店舗数、販売額、従業者数いずれも減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 店舗数は平成26年には平成14年の44.8%の店舗数まで減少している。 従業者数は平成26年には平成14年の49.0%まで減少している。 年間商品販売額は平成26年には平成14年の48.1%まで減少している。 対市シェアの動向を見ると、店舗数は13.5%から9.5%に減少、従業者数は13.9%から8.7%に減少、年間商品販売額は20.3%から10.4%に減少している。 <p>小売業の動向</p> <table border="1" data-bbox="438 1411 1404 1948"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>中心市街地 ①</th> <th>大分市全域 ②</th> <th>対市シェア ①/②</th> <th>中心市街地の増減 (H14年比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平成14年</td> <td>店舗数(店)</td> <td>578</td> <td>4,283</td> <td>13.5%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>従業者数(人)</td> <td>4,273</td> <td>30,631</td> <td>13.9%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>年間商品販売額(億円)</td> <td>1,056</td> <td>5,197</td> <td>20.3%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">平成19年</td> <td>店舗数(店)</td> <td>491</td> <td>3,919</td> <td>12.5%</td> <td>84.9%</td> </tr> <tr> <td>従業者数(人)</td> <td>3,348</td> <td>30,687</td> <td>10.9%</td> <td>78.4%</td> </tr> <tr> <td>年間商品販売額(億円)</td> <td>800</td> <td>5,326</td> <td>15.0%</td> <td>75.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">平成26年</td> <td>店舗数(店)</td> <td>259</td> <td>2,714</td> <td>9.5%</td> <td>44.8%</td> </tr> <tr> <td>従業者数(人)</td> <td>2,094</td> <td>24,065</td> <td>8.7%</td> <td>49.0%</td> </tr> <tr> <td>年間商品販売額(億円)</td> <td>508</td> <td>4,863</td> <td>10.4%</td> <td>48.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※対市シェアとは、大分市全域における中心市街地の占める割合</p> <p>資料：平成14年商業統計 平成19年商業統計 平成26年商業統計</p>			中心市街地 ①	大分市全域 ②	対市シェア ①/②	中心市街地の増減 (H14年比)	平成14年	店舗数(店)	578	4,283	13.5%	—	従業者数(人)	4,273	30,631	13.9%	—	年間商品販売額(億円)	1,056	5,197	20.3%	—	平成19年	店舗数(店)	491	3,919	12.5%	84.9%	従業者数(人)	3,348	30,687	10.9%	78.4%	年間商品販売額(億円)	800	5,326	15.0%	75.8%	平成26年	店舗数(店)	259	2,714	9.5%	44.8%	従業者数(人)	2,094	24,065	8.7%	49.0%	年間商品販売額(億円)	508	4,863	10.4%	48.1%
		中心市街地 ①	大分市全域 ②	対市シェア ①/②	中心市街地の増減 (H14年比)																																																		
平成14年	店舗数(店)	578	4,283	13.5%	—																																																		
	従業者数(人)	4,273	30,631	13.9%	—																																																		
	年間商品販売額(億円)	1,056	5,197	20.3%	—																																																		
平成19年	店舗数(店)	491	3,919	12.5%	84.9%																																																		
	従業者数(人)	3,348	30,687	10.9%	78.4%																																																		
	年間商品販売額(億円)	800	5,326	15.0%	75.8%																																																		
平成26年	店舗数(店)	259	2,714	9.5%	44.8%																																																		
	従業者数(人)	2,094	24,065	8.7%	49.0%																																																		
	年間商品販売額(億円)	508	4,863	10.4%	48.1%																																																		

要件	説明																																																																																																																							
第2号要件 当該市街地の土地利用及び商業活動の状況等からみて、機能的な都市活動の確保又は経済活動の維持に支障を生じ、又は生ずる恐れがあると認められる市街地であること	○事業所数、従業者数の減少 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地の事業所数は、平成21年の3,411事業所から平成26年は3,349事業所となり、62事業所が減少している。 ・ 従業者数では、平成21年の32,990人から平成26年は32,154人で、836人の減少となっている。特に、「サービス他に分類されないもの」「卸・小売」の減少が著しい。 																																																																																																																							
	中心市街地における業種別産業の動向 (事業所、人)																																																																																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>全産業</th> <th>建設</th> <th>製造</th> <th>電気・ガス・熱供給・水道</th> <th>情報通信</th> <th>運輸・郵便</th> <th>卸・小売</th> <th>金融・保険</th> <th>不動産・物品賃貸</th> <th>学術研究・専門・技術サービス</th> <th>宿泊・飲食</th> <th>生活関連サービス・娯楽</th> <th>教育・学習支援</th> <th>医療・福祉</th> <th>複合サービス</th> <th>サービス他に分類されないもの</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業所数</td> <td>平成21年 3,411</td> <td>54</td> <td>27</td> <td>3</td> <td>63</td> <td>25</td> <td>722</td> <td>164</td> <td>261</td> <td>202</td> <td>1,077</td> <td>248</td> <td>104</td> <td>174</td> <td>9</td> <td>278</td> </tr> <tr> <td></td> <td>平成26年 3,349</td> <td>53</td> <td>27</td> <td>7</td> <td>59</td> <td>26</td> <td>669</td> <td>169</td> <td>228</td> <td>218</td> <td>1,031</td> <td>254</td> <td>120</td> <td>201</td> <td>7</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td></td> <td>増減 ▲62</td> <td>▲1</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>▲4</td> <td>1</td> <td>▲53</td> <td>5</td> <td>▲33</td> <td>16</td> <td>▲46</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>27</td> <td>▲2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>従業者数</td> <td>平成21年 32,990</td> <td>574</td> <td>392</td> <td>527</td> <td>1,349</td> <td>1,530</td> <td>5,749</td> <td>3,592</td> <td>1,156</td> <td>1,131</td> <td>6,469</td> <td>1,570</td> <td>840</td> <td>2,449</td> <td>134</td> <td>5,528</td> </tr> <tr> <td></td> <td>平成26年 32,154</td> <td>525</td> <td>269</td> <td>906</td> <td>1,266</td> <td>1,375</td> <td>4,908</td> <td>3,755</td> <td>966</td> <td>1,087</td> <td>6,335</td> <td>1,430</td> <td>1,169</td> <td>3,274</td> <td>82</td> <td>4,538</td> </tr> <tr> <td></td> <td>増減 ▲836</td> <td>▲49</td> <td>▲123</td> <td>379</td> <td>▲83</td> <td>▲155</td> <td>▲841</td> <td>163</td> <td>▲190</td> <td>▲44</td> <td>▲134</td> <td>▲140</td> <td>329</td> <td>825</td> <td>▲52</td> <td>▲990</td> </tr> </tbody> </table>		全産業	建設	製造	電気・ガス・熱供給・水道	情報通信	運輸・郵便	卸・小売	金融・保険	不動産・物品賃貸	学術研究・専門・技術サービス	宿泊・飲食	生活関連サービス・娯楽	教育・学習支援	医療・福祉	複合サービス	サービス他に分類されないもの	事業所数	平成21年 3,411	54	27	3	63	25	722	164	261	202	1,077	248	104	174	9	278		平成26年 3,349	53	27	7	59	26	669	169	228	218	1,031	254	120	201	7	280		増減 ▲62	▲1	0	4	▲4	1	▲53	5	▲33	16	▲46	6	16	27	▲2	2	従業者数	平成21年 32,990	574	392	527	1,349	1,530	5,749	3,592	1,156	1,131	6,469	1,570	840	2,449	134	5,528		平成26年 32,154	525	269	906	1,266	1,375	4,908	3,755	966	1,087	6,335	1,430	1,169	3,274	82	4,538		増減 ▲836	▲49	▲123	379	▲83	▲155	▲841	163	▲190	▲44	▲134	▲140	329	825	▲52	▲990
		全産業	建設	製造	電気・ガス・熱供給・水道	情報通信	運輸・郵便	卸・小売	金融・保険	不動産・物品賃貸	学術研究・専門・技術サービス	宿泊・飲食	生活関連サービス・娯楽	教育・学習支援	医療・福祉	複合サービス	サービス他に分類されないもの																																																																																																							
	事業所数	平成21年 3,411	54	27	3	63	25	722	164	261	202	1,077	248	104	174	9	278																																																																																																							
		平成26年 3,349	53	27	7	59	26	669	169	228	218	1,031	254	120	201	7	280																																																																																																							
		増減 ▲62	▲1	0	4	▲4	1	▲53	5	▲33	16	▲46	6	16	27	▲2	2																																																																																																							
	従業者数	平成21年 32,990	574	392	527	1,349	1,530	5,749	3,592	1,156	1,131	6,469	1,570	840	2,449	134	5,528																																																																																																							
		平成26年 32,154	525	269	906	1,266	1,375	4,908	3,755	966	1,087	6,335	1,430	1,169	3,274	82	4,538																																																																																																							
		増減 ▲836	▲49	▲123	379	▲83	▲155	▲841	163	▲190	▲44	▲134	▲140	329	825	▲52	▲990																																																																																																							
※全事業所は公務を除く 資料：平成21年経済センサス 平成26年経済センサス																																																																																																																								
○近年空き店舗率が増加傾向 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年以降、空き店舗率は低下し、平成27年には6.9%となった。その後、上昇傾向に転じ、平成29年には11.1%となっている。 																																																																																																																								
中心市街地の主な商店街の空き店舗率																																																																																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23.3</th> <th>H24.3</th> <th>H25.3</th> <th>H26.3</th> <th>H27.3</th> <th>H28.3</th> <th>H29.3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大分市竹町通商店街振興組合</td> <td>17.1%</td> <td>16.7%</td> <td>12.8%</td> <td>13.0%</td> <td>7.9%</td> <td>10.5%</td> <td>10.4%</td> </tr> <tr> <td>大分市中央町商店街振興組合</td> <td>7.6%</td> <td>11.3%</td> <td>12.3%</td> <td>8.5%</td> <td>7.5%</td> <td>6.5%</td> <td>13.1%</td> </tr> <tr> <td>大分市府内五番街商店街振興組合</td> <td>2.9%</td> <td>4.3%</td> <td>7.4%</td> <td>10.3%</td> <td>8.8%</td> <td>5.9%</td> <td>5.9%</td> </tr> <tr> <td>大分市ボルトソール商店街振興組合</td> <td>14.5%</td> <td>10.5%</td> <td>9.2%</td> <td>5.3%</td> <td>6.7%</td> <td>12.0%</td> <td>16.0%</td> </tr> <tr> <td>サンサン通り商店街振興組合</td> <td>5.7%</td> <td>7.7%</td> <td>2.0%</td> <td>3.9%</td> <td>2.0%</td> <td>4.3%</td> <td>8.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9.8%</td> <td>10.5%</td> <td>9.5%</td> <td>8.5%</td> <td>6.9%</td> <td>8.0%</td> <td>11.1%</td> </tr> </tbody> </table>		H23.3	H24.3	H25.3	H26.3	H27.3	H28.3	H29.3	大分市竹町通商店街振興組合	17.1%	16.7%	12.8%	13.0%	7.9%	10.5%	10.4%	大分市中央町商店街振興組合	7.6%	11.3%	12.3%	8.5%	7.5%	6.5%	13.1%	大分市府内五番街商店街振興組合	2.9%	4.3%	7.4%	10.3%	8.8%	5.9%	5.9%	大分市ボルトソール商店街振興組合	14.5%	10.5%	9.2%	5.3%	6.7%	12.0%	16.0%	サンサン通り商店街振興組合	5.7%	7.7%	2.0%	3.9%	2.0%	4.3%	8.0%	計	9.8%	10.5%	9.5%	8.5%	6.9%	8.0%	11.1%																																																																
	H23.3	H24.3	H25.3	H26.3	H27.3	H28.3	H29.3																																																																																																																	
大分市竹町通商店街振興組合	17.1%	16.7%	12.8%	13.0%	7.9%	10.5%	10.4%																																																																																																																	
大分市中央町商店街振興組合	7.6%	11.3%	12.3%	8.5%	7.5%	6.5%	13.1%																																																																																																																	
大分市府内五番街商店街振興組合	2.9%	4.3%	7.4%	10.3%	8.8%	5.9%	5.9%																																																																																																																	
大分市ボルトソール商店街振興組合	14.5%	10.5%	9.2%	5.3%	6.7%	12.0%	16.0%																																																																																																																	
サンサン通り商店街振興組合	5.7%	7.7%	2.0%	3.9%	2.0%	4.3%	8.0%																																																																																																																	
計	9.8%	10.5%	9.5%	8.5%	6.9%	8.0%	11.1%																																																																																																																	
資料：大分市商工労政課																																																																																																																								
○市民の中心市街地への来街頻度の低下 <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年前と比べた中心市街地への来街頻度の変化についてみると、減ったと答えた割合（「減った」「少し減った」の計）は、増えたと答えた割合（「増えた」「少し増えた」の計）を上回り、全体として来街頻度が低下している。 																																																																																																																								
<p>中心市街地への来街頻度の変化 n=853</p> <ul style="list-style-type: none"> 増えた 15.0% 少し増えた 13.1% 変わらない 30.8% 少し減った 12.5% 減った 28.5% 																																																																																																																								
資料：大分市中心市街地活性化に関する市民アンケート（平成29年7月）																																																																																																																								

要件	説明
<p>第3号要件 当該市街地における都市機能の増進及び経済活動の向上と一体的に推進することが、当該市街地の存在する市町村及びその周辺の地域の発展にとって有効かつ適切であると認められること</p>	<p style="text-align: center;">中心市街地の活性化は、大分市総合計画「おおいた創造ビジョン 2024」と整合性を図りながら進めることとしており、総合計画に基づく「風格とにぎわいのある都市拠点」の形成に資する。また、大分都市広域圏ビジョンにおいても圏域全体の持続性ある発展をけん引する役割が期待されている。</p> <p>○大分市総合計画「おおいた創造ビジョン 2024」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画においては、「将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちづくり（都市基盤の形成）」を基本的な政策のひとつに掲げ、快適な都市構造の形成と機能の充実に向けて、「多様な生活サービス機能が集積した県都にふさわしい風格ある広域都心の形成」を図ることとしており、中心市街地の活性化は広域都心の形成と整合がとれている。 <p>○大分都市広域圏ビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市は連携中枢都市圏の中心市となることから、本ビジョンの方向性に掲げられた「圏域全体の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」、「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」を図る上で、中心市街地の活性化は圏域全体の持続ある発展をけん引するものとなる。